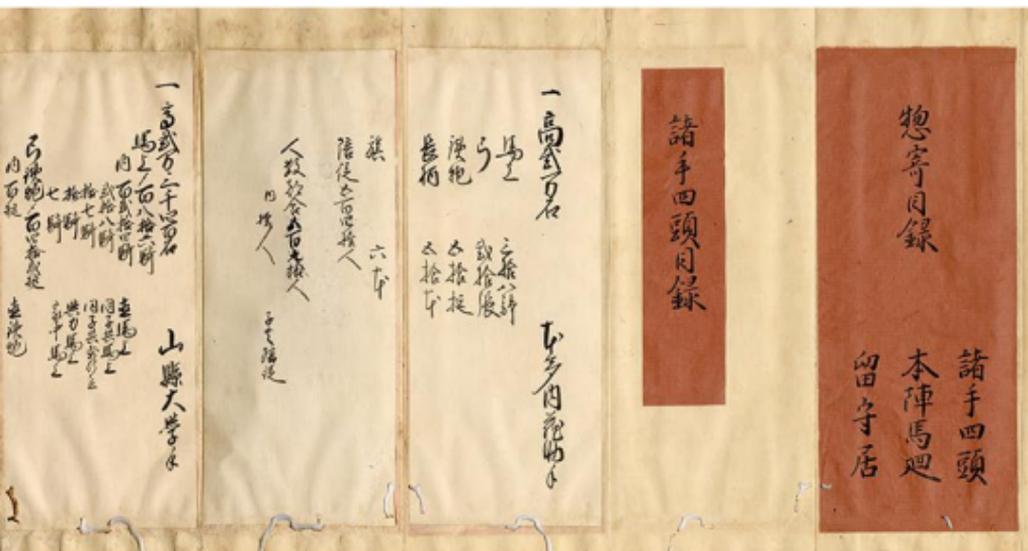


2. 軍学者のしごと

井原の軍学者としての仕事には、軍書の講義や鎧兜の着用法の教授、武器の製造、狼煙の試験などがありました。

中でも最も重要な仕事が軍帳の作成でした。軍帳とは軍の編制や軍役（戦時に負担すべき人員や武器）の数を列記したもので、藩では「御秘密の御作法」として慎重に扱われています。忍者の人数や武器の数等も軍帳に定めがあります。

福井藩の逸話集「南越雑話」には、この軍帳作成の場面が描かれており、担当の役人は井原に対して敬意をもって「先生」と呼んでいた様子が伝わります。同書の著者は「井原氏ノ才智、衆人ノ及フ所ニアラズ」と評しました。



嘉永5年（1852）時点の「古御軍帳」（A0143-20981 松平文庫・当館保管）

藩士名や負担すべき人員・武器の数が記された短冊は、貼ったり剥がしたりして編集できるようになっています。